

ガビン先生！

楽しく学ぼう



①

「日本の古典文学

十とら話

一夜編

令和五年度

始まり

令和元年

第一回



令和五年六月二日 金曜日

十時〜十一時三十分

東京都総合市民センターにて

伊藤

伊藤雅敏

オノマトペ

擬態語
擬音語
擬声語

エフエフ、ウロウロ、ガミガミ
メーメー、ブーブー
音韻体系からその聞こえる

↓人間の言葉

犬

縄文時代終末

弥生犬

食用……長崎県佐賀郡から出土

朝鮮半島から人が渡ってくる 十犬も渡来

大和時代

『日本書紀』地方行政組織の守衛→飼犬(大養部)

基本的に野放し野犬 食用→守衛→受玩

奈良→平安時代 鷹狩の供、番犬→野犬 犬は飼われ

鎌倉→江戸時代 放し飼いの犬追物→術鑑録の的

軍用犬、伝令犬 +

「生類憐みの令」手厚い保護政策 富裕層の愛玩動物

大鏡

白河院政期 1086-1129

「道長権物語」

犬の法事、↓飼主が説教を頼んだ

清範法師(播磨国の僧侶)

「ただいまや、過去聖霊は蓮台の

上にて、^レひよ^ト吠え給ふらん」

今昔物語集 卷五(六)二十九 1110
1124?

天の鳴き声 「行」ギャン?

天鏡 「こよ」「こよ」「こよ」

狂言本 「びよ」「びよ」「びよ」「びよ」

狂言記 「びよ」「びよ」「びよ」

用明天皇職人鑑 近松門左衛門 「べう」別府

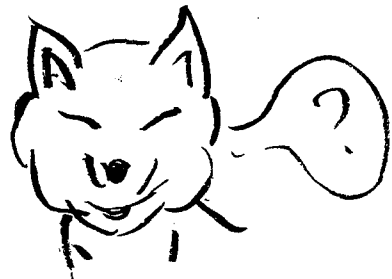
柿山伏 「わんわん」

浮世床 「きゃん」

同じ音、同じ声 ↓ 生まれた音に歴史と文化に

よって違ってくる

日本	わんわん	きゃん	
英語	Wow	わう	Bow ボウ
	woof	ウフ	ruff ラフ
仏語	Wauw	わう	waouh ワフ
スペイン	Guau	グアウ	
蘭	Blaf	ブラフ	
ルマア	Ham	ハム	
韓国	Meong	モン	
インド	Guk	グク	
トルコ	Hev	ヘヴ	
イラン (ペルシア語)	Haap	ホフ	
インド (アラビア語)	Haw	ハウ	



江戸中期	1705	1660	1642	1130
	宝永2	万治3	寛永6	天承元

猫

奈良時代には中国から伝わった

源氏物語 若菜下

「人気遠かりしじもいとよく馴れてもすはば

衣の裾にまっはれ 寄り臥し睦るると

すめやかにうつくしと思ふ いたくながめて

端近く寄り臥し給ふるに来てねうねうと

いとらうたげに鳴けば かき撫でて

うたてもすすむかなと ほほ笑まらる

平安時代

鎌倉時代

江戸時代

ねうねう

ねんねん

にやにや

英語

mew

江-

meow

三つ

レ

弥生と古墳（～500年頃）



巻布衣 (貫頭衣から)
 ← 一枚の布を巻きつけた
 ツーピース (チズキン) へ



貫頭衣 袖なしのワンピース
 ← 上からかぶる 腰で帯状の紐を結ぶ
 ツーピース 上は丈の短い衣
 下はロングスカートのように

大和

きぬま
 衣袴

上は長袖 下はズボン



丸衿 下はゆたり
 垂衿 膝下で結ぶ

きぬも
 衣裳

上は長袖 下はロングスカート



帯で正面にて結ぶ
 於須比(死か)比礼(長)

(シヨール)

飛鳥 700年頃

左衽着装法

十二階

推古天皇11年12月 初めて冠位を行ひ

冠 かんむり

笏 しやく

下襲 しもがね

下襲 褶 ひらみ

結い髪 しもがね

下襲

裳 も

袍 ほろ

長紐

上袴 うかま

うかま

袍 ほろ

褶 ひらみ

ひらみ

奈良 790年頃

だんだんゆったりし

律令政治

元正天皇

養老3 719 二月三日

「右衽令」

右衽 着物は右前に命ず

すべての人へ (庶民も)

歌垣の女 (農村)

ひれ頭巾 (氏巻)

頭巾

祭礼

あお襦 (上衣)

内礼

裾 (裳)

五穀豊穡

神を崇め奉る

祝祭的行事

享樂的風流の遊びへ

礼服

五位以上の官位

朝服

有位の官吏

出任中の参朝服

制服

無位の官吏

文官 武官

朝服

文官

漆紵の冠

袴

長紐

袴

(白袴)

下襲 (内衣の袖)

(關腋袍)

位襖

横刀 横刀の緒

袴 (白袴)

武官

頭巾

笏

半臂

烏皮履

養老の衣服令による 礼服



大宝元701 大宝律令

由国の唐↓其集権的強力な国家

西本願寺奉萬葉集

藤原宮御宇天皇代

高天原廣野姬下百二十年丁亥十二年
諸位輕太子號日大天皇

天皇御製歌

春過而夏來未良之日始能衣乾有天久香來山

穗久邇文庫藏伝二条為氏筆

新古今和歌集卷第三

夏哥

題不知 持流天皇御宇

もろすもろかよよけ〜るの
ころもろすもろあまの〜る

萬葉集

28

天皇御製歌

持統天皇 ↓ 文
○清御原宮
×藤原宮

春過而

春過ぎて

春が過ぎて

夏来良之

夏来たるら

夏が来たら

ら 推定の助動詞

白妙能

白たへの

真白な

衣乾有

衣干したり

衣が干してあるよ。

天之香来山

天の香具山

天の香具山に

新古今和歌集

夏 175

ら 来たる 推定 伝聞 推定

春過ぎて夏来たる

ら

白たへの

衣干したり

天の香具山

天の香具山

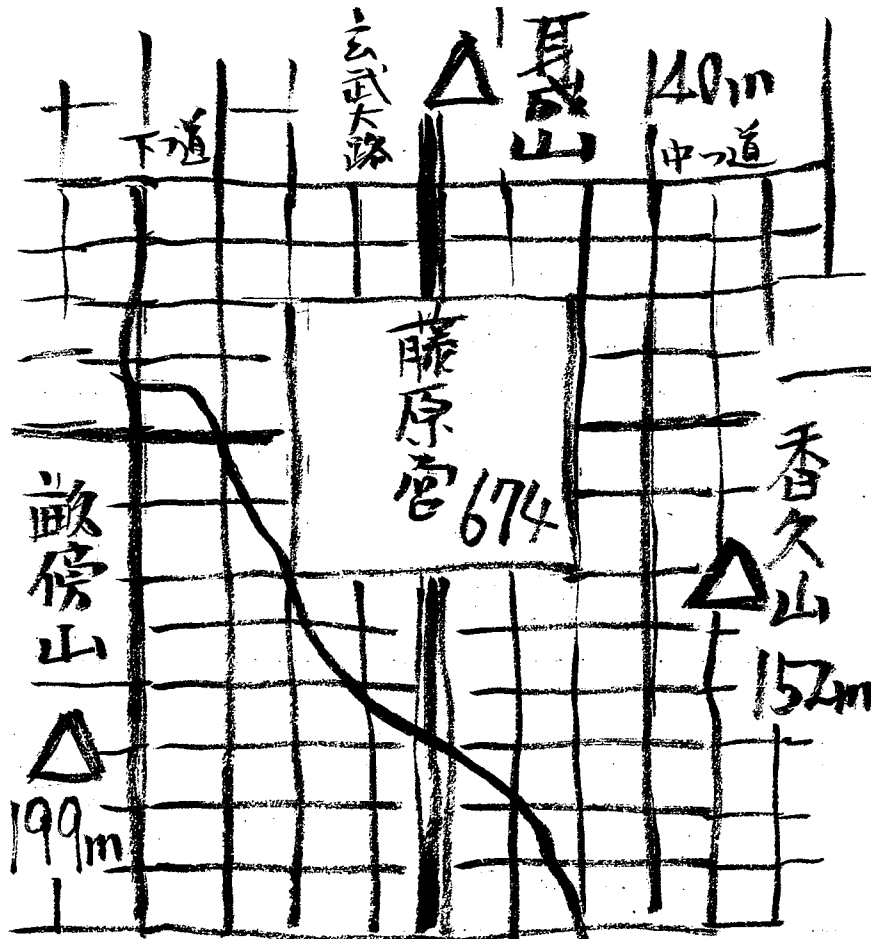
来にけし

すてふ

存疑

とら 伝聞

和歌 推定



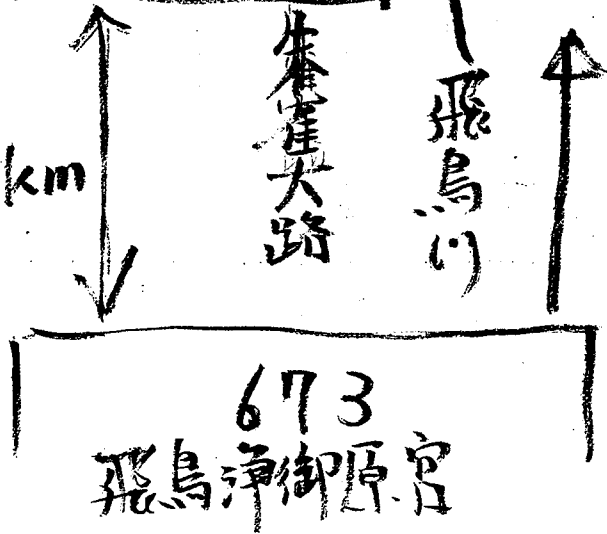
有藤女吉
藤原宮
から見た

「大宝律令」

皇
持統 ↑ 天武
未

(王申の地)
672
国家運宮
造宮
天皇による

飛鳥浄御原宮
から見た
土屋文明



梅雨明け 青い空

白い雲ー布倉

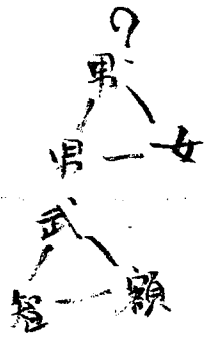
天武持統陵

八角五段形墳

大和三山

? 額 旺 天武
天智

飛鳥の三角関係



耳男男女男
畝男女男男
香子男女女
朝朝朝朝

由布佐礼婆

夕なれば

夕べになると

安伎可左牟思

秋風寒し

秋風が寒い

和伎母故我

吾妹子が

我が妻が

等伎安良比其母

解き洗ひ衣

解いて洗ひさらした
着物を

由伎豆波也伎牟

行きて早着む

帰って早く着た

黒武北
水
冬
幼見期?
老年期?

東

青春
青春
若年期
青龍
木

土

中央
黄
驕
麒麟

南

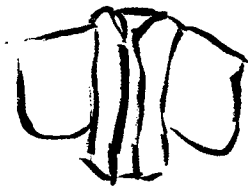
夏
朱雀
火
杜年期
夏

西

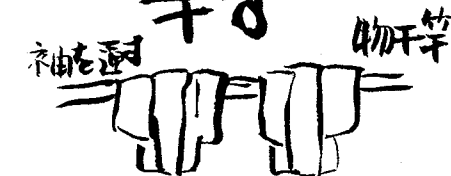
秋
白虎
金
熟年期
幽玄体

北原
白秋

丸洗い



↓
干す



(洗う度に)
ダメージ

「**染衣**」

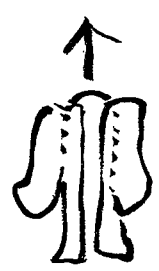
仕立て直し

部分**取替**

新調は無理
ほとんどない



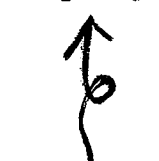
踏洗
洗濯



↑
縫い合



生地



糸織り

高価
一日に数Cm

解き洗い

いったん縫い糸をほぐす
(どのくらいまで?)



↓
干す...



果敢衣を脱いで
干す間に

心を繋ぐ
体を繋ぐ

伸子張

再び
縫い合



布を打って洗う
(研)
衣板

色落ち...洗う前の方がいい

+

三色あせて
微妙な色あり

★控えるの衣を着る
干しはまねない

洗濯休暇願

正倉院文書にいくつもある

天平宝字二年758十月二十一日付 5日間

(写経生)

大原国持「大原国持謹解 請暇日事」

合伍暇日

右、請穢衣服洗為暇日如前 以解

宝龜三年753三月二十日付 3日間

(経師)

巧清成「巧清成解 申請暇事」

合三箇日

右件、依穢衣服洗、請暇如件、以解

解りて洗ふ、また縫い直す

針仕事もするたため

一張羅ニ着たきり雀

← 洗ったあとと出仕する時の気持ちが異なる

衣類関係の洗濯

女性の家事の一つ十針仕事の縫い付け

必須 穴の繕い

結局着るものの代わりがないと

出仕できない!!

大王之

大君の

大君の

塩焼海部乃

塩焼く海人の

塩焼く海人の

藤衣

藤衣

藤衣のよりに

穢者雖為

なれはすれども

身に馴れることあるも

弥希将見毛

いぬめずらしも

いよよ新鮮をかわけよ

天皇に献上する塩は越前角鹿(福井県敦賀市)で産したものの

その作業衣(入藤衣)藤布製

初秋 藤の蔓から採った繊維を糸に

冬に織って作る

○麻布より丈夫強い

×肌触りが悪い ↓ 作業衣として使用

新婚で慣れてはまたけれど やばり 心引かる其暮りい

新鮮で可愛いの

負いながらも幸せな家庭